2011年11月9日

日本人類学会　会長

金澤英作先生

前略

国際人類民族科学連合（IUAES- International Union of Anthropological and Ethnological Sciences）の事務局長としてご連絡させていただいております。

　２０１３年８月５日－１０日にイギリスのマンチェスターで、国際人類民族科学連合の世界大会（IUAES 2013）が開催されます（<http://www.iuaes2013.org/>）。この大会は、人類学・民族科学において最も長い歴史のある国際研究集会として、１９３４年以来５年ごとに継続して開かれてきました。１９６８年には東京で開催された世界大会が大きな成功をおさめ、そのことが日本の人類学発展の礎となったと言われております。近年では１９９３年にメキシコ・シティ、１９９８年にアメリカのウィリアムズバーグ、２００３年にイタリアのフィレンツェ、２００９年に中国の昆明で開催されました。２００２年には東京でIUAES中間会議も開催されております。

　２０１３年８月の第１７回世界大会の主催者であるマンチェスター大学マックス・グラックマン特別教授ジョン・グレッドヒル氏より、貴学会から多数の会員のご参加をいただきたいことについて依頼がありました。グレッドヒル教授からの依頼状を添付させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

　イギリスで大規模な国際会議を開催する際には、国外からの参加者のビザ申請の問題があり、また渡航のための助成申請手続きを迅速に進める必要があるため、早くからパネルを募集し準備を進めて参りました。しかし中間集計によれば、現時点では日本からの参加が非常に限られていることが判明しております。グレッドヒル教授は、世界の中で日本の人類学が果たしている重要な役割や人類学者数の比率からみて、また包括的な世界組織としての国際人類民族科学連合をこれまで日本がその柱の一つとして支えてきたことを考えても、これはたいへん残念なことであると指摘しておられます。私もそのように強く感じております。

　上記のビザ申請や助成申請などのため、パネルの応募期限がたいへん早く、一応本年の10月末までとなっておりましたが、今後もオンライン上で引き続き受付可能ということです。論文発表の応募期限は２０１２年６月１日となっております。（既に受理されたパネルでの論文については、２０１２年１月３１日が期限となります。）このことを是非貴学会の会員の皆様にお知らせいただき、パネルの組織や論文発表など、マンチェスターの世界大会に積極的にご参加くださるようご配慮いただければ幸いに存じます。

　人類学・民族学の異なる学問伝統と多様な専門分野を結び付ける国際人類民族科学連合は、現在大きな改革を実現し、さらなる活性化を進めることに努めております。そのためにはマンチェスター大会を大きな成功に導くことが必須であり、私も事務局長として全力を投入しております。貴学会のご支援をいただければ、まことに幸甚に存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

　　　　 　　　　草々

小泉潤二

国際人類民族科学連合（IUAES）　事務局長

<http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/iuaes/>

大阪大学 大学院人間科学研究科教授

大阪大学 前理事・副学長

〒565-0871  吹田市山田丘1-2

TEL/FAX 06-6879-8085　人類学研究室

E-MAIL [koizumi@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:koizumi@hus.osaka-u.ac.jp)

[iuaes@glocol.osaka-u.ac.jp](mailto:iuaes@glocol.osaka-u.ac.jp)